

平成 25 年度 第 3 回 鶴岡市立藤沢周平記念館運営委員会（会議概要）

○日 時 平成 26 年 3 月 10 日（月）午後 2 時 15 分～4 時 30 分

○会 場 東京第一ホテル鶴岡

○審議事項 1 報告

(1) ポストカードについて

(2) 平成 25 年度入館者状況、講演会・朗読会等普及事業実施状況
について

2 協議

(1) 第 6 回企画展（『風の果て』の世界）展示構成案について

(2) その他

○出席委員

遠藤崇寿、遠藤展子、湯川 豊、鈴木文彦、栗原正哉、犬塚幹士、東山昭子、高山邦雄、
堀 司朗

○欠席委員

なし

○市側出席職員

教育委員会教育部長 山口 朗、教育委員会社会教育課長 加藤 保、
教育委員会藤沢周平記念館長 鈴木 晃、同館主査 三浦真紀、
同館専門員 進藤恵理也、同館専門員 成澤万寿美

○その他出席者

高橋吉弘、穴澤 亮（運営支援業務受託者）

○公開・非公開の別 非公開

○非公開の理由 顕彰する個人の情報を含むため

○報告

(1) ポストカードについて

◆内容

館内販売用ポストカード 2 種（風景 5 枚、愛用品 5 枚）完成。商標使用に係る契約締
結後販売する。1 セット 500 円の予定。

◆意見など

特になし

(2) 平成 25 年度入館者状況、講演会・朗読会等普及事業実施状況について

◆内容

平成 25 年度 2 月末現在の入館者数並びに 10 月以降に実施した講演会、朗読会、館内
朗読会の実施状況及びサロンに設置してあるアンケート（2 月末まで）の結果について
報告。

◆質問・意見など

- ・藤沢作品の読者層を知りたい。それによって、企画展とか展示の仕方を多少考えなくてはいけない。来館者の状況を見ると圧倒的に60代が多い。50代位がもう少し増えると将来性に繋がると思う。
- ・今やっている食べ物の展示を年に1、2回定期的にやれば、若い世代も含めて来館者が来ると思う。
- ・アンケートにいろんな要望が出ている。ただ聞くだけでなく、応えられないものもあるだろうが、応えられるものは応えるようにした方が良い。
- ・喫茶スペースの要望が多い。館内が無理なら隣接する施設も含めて考えられないか。

◆対応

- ・喫茶スペースについては、今後の運営上の課題として検討する。

○協議

(1) 第6回企画展（『風の果て』の世界）展示構成案について

◆内容

- ・展示コーナー（A～D）における、展示概要案を説明

A部：作品紹介、主な登場人物の紹介、主人公の夢と野心

B部：執政・農政のしくみ、『風の果て』分限帳、次男の境遇や武家の風習

C部：権力闘争、太蔵が原の開墾

D部：記述の変遷、インタビュー・エッセイによる作者の声

◆意見等

- ・農政と執政のしくみが分かれば、この小説はだいたい理解できる。全部均一にしないで、一番の勘所を詳しく誰もが分かるように説明するのが一番大事。薄い所と濃い所を用意して、小説を読んでも理解しにくい部分を中心にやるべきと思う。
- ・文学作品の展示の難しい所は、テーマをどうするか。テーマは人に押し付けるものでないが、テーマのヒント位は展示の中にあっても良い。その作品が持っている人を感動させるヒントみたいなものは、何らかの形で上手く出してほしい。それがその物語の面白さの展開にも結びついていくと思う。歴史的背景そればかりにならないでほしい。
- ・幾つかのヒントとなるようなものを本からの引用という形で出せば良い。
- ・初出の担当者との話を最後の部分に抜き出すのも良い。
- ・初出の挿絵を描いた東啓三郎さんが、どういう思いで書いていたのかが興味がある。それを図録にうまい具合に出せないか。
- ・最初のA部は、抽象的な展示。ここに挿絵を使えばビジュアル的に良いと思う。
- ・この作品の面白さは、若い時からの夢、太蔵が原の開墾の所にも作品の面白さがある訳で、太蔵が原のことで、主人公が出世していく物語の展開、それと友達の関係

が主な所となると思う。

◆協議結果

- ・展示構成の大筋は了承。頂戴した意見を踏まえ、展示を作り上げる。

(2) その他

①企画展テーマについて

◆内容

第6回企画展 《『風の果て』の世界》

会期：平成26年6月6日（金）～11月4日（火）

第7回企画展 《藤沢周平と郷学》（仮称）

会期：平成26年11月7日（金）～平成27年3月31日（火）

開館5周年記念特別企画展 《藤沢周平と直木賞前後》（仮称）

会期：平成27年4月3日（金）～

以上の前回決定したテーマについて確認

◆意見など

○第7回企画展テーマについて

- ・論語でもよいと思う。特に鶴岡市教育委員会で「親子で楽しむ論語」を全生徒に配布もしているので。
- ・やろうとする展示内容は何となく分かるが、何かしっくりこない気がする。論語とすると論語だけに絞られてしまうように思うし、その辺が難しいと思う。論語とか郷学（きょうがく）よりももう一つ上の概念の、全部を含むタイトルを付けられないものか。こういうのを全部合わせると教養とかもあるだろうが、しっくりくるものがないので、ご意見をいただきたい。
- ・高山さんのところに立ち寄って読まれている本の多くは漢籍ですね。漢学の素養というのは非常に深く、溶け込んでいると思う。先生の幼年期を形成した生誕地を含めて、精神性を形成したバックボーン的な部分は語られると思う。作家としての学問の系譜ではなくて、総合的に漢学に親しんでこられたという作家の系譜の部分があると思う。
- ・この前館長から、論語と郷学のどちらが適切か尋ねられた時、郷学の方が良いと答えた。それは、ここの論語は庄内論語と言って独特の読み方をする論語なもので、一般的な論語とは違うことから、混同しないように郷学の方が良いと思うと答えた。
- ・郷学の方が、良いかもしれない。論語というと反対する人もいる。

◆協議結果

- ・方向性としては良いが、テーマについては、なお検討する。